

障害のある人の暮らし・家族づくり・家族支援の連続お話会

障害がある人が恋愛したり、パートナーと暮らしたり、子育てすることについて、当事者や支援者の方から、リアルなお話を伺いたと思います（一人暮らしも含みます）。制度が追い付いていないところがあると思いますが、自分らしく、権利を侵害されないで、家族がまるごとサポートされるヒントを考えられたらと思います。それぞれ、ご自宅や活動場所など、話し手の身近な場所から生配信します。お話会のあとに 30 分の放課後タイムを設ける予定です。ご参加お待ちしております。



2024年度

9月11日(水) 17:30-18:30 知的障害がある夫婦とお子さんのグループホームでの暮らし

10月6日(日) 10:30-11:30 脳性麻痺がある夫婦の妊娠出産と子育て

10月26日(土) 10:00-11:00 ダウン症がある青年の一人暮らしと学びと仕事

11月13日(水) 19:30-20:30 精神障害がある人の家族まるごと支援 メリデン版訪問家族支援と ACT

11月27日(水) 18:00-19:00 障害がある人の愛する人との出会い、交際、子育て、家族生活のサポート ※いずれも終了後に **30分の放課後タイム**があります(個別の質問やお話など)。

場所と参加費：オンライン (ZOOM) (お申込みの方にお知らせします。) 参加費無料

申込：Peatix <https://shizuoka2024.peatix.com> 申込者限定でアーカイブ配信予定。

共催 障害がある人の暮らしを考えるイベント実行委員会 静岡大学白井千晶研究室

対象：当事者、家族や周囲の方、支援者、医療者、関心のある方どなたでも (静岡県助成事業ですが静岡県外の方も OK)

問い合わせ：白井千晶 (静岡大学人文社会科学部) (shirai.chiaki@shizuoka.ac.jp)

本お話会は、静岡県合理的配慮理解促進助成を受けて実施しています。



お話下さる方々の紹介

NPO 法人 UCHI 障害者のためのグループホーム UCHI では、知的障害のある人が地域社会で人間関係をつくること、自分らしく生きること、意思決定を支援してきました。グループホームで子育てをしている夫婦もいらっしゃいます。ママさん「子どもが生まれて、守るものができて、ガンバロウの気持ちが大きくなった。」 パパさん「生活の中心が、「自分」から「家族」に変わったのを実感。」

足立さん・喜多田さん夫婦 自立生活センターいこらー (大阪府) のスタッフ、足立さん、喜多田さんは、それぞれ脳性麻痺があり、訪問介護を利用しながら子育てをしています。妊娠、出産、産後には、津田助産院の産後ケアを利用しました。「子どもを授かったら 24 時間他人も家族も出入りする家になりました。我が家にとってはこれが普通です。」

田中元人さん 元人さんにはダウン症があります。昨年一人暮らしを始めました。仕事をやめて、「ゆたかカレッジ」に入学し、さまざまなスキルを学んだり、友人と楽しい時間を過ごしました。詩を書くことや、

ライブに行くことが好きです。ゆたかカレッジを卒業して、就職が決まりました。元人さんが「差別をなくしたい」と言ったのがお話会のきっかけです。元人さんから皆さんへのメッセージ「世界中にさまざまな障害の当事者達がいることを忘れないでほしい」

社会福祉法人 南高愛隣会 結婚推進室「ぶ〜け」を事業の一つとして運営しています。障がいのある方たちの「ふつうの場所で愛する人との暮らし」を実現するために、登録者同士の出会いのチャンスを創り、交際が始まった後も、交際のフォローアップや、愛する人との暮らしづくりを応援しています。子育てや家族生活に至っても、豊かな暮らしが続くようサポートしています。

びあくクリニック 浜松市にある精神科びあくクリニックです。「どんな重度の精神障害を抱える人であろうと、その人が地域でのびのび自由に生きていくことを可能な限り支援します」を理念とし、訪問支援を行っています。メリデン版訪問家族支援、ACT (包括型地域生活プログラム)、WRAP® (元気回復行動プラン)、当事者の居場所の活動 (虹の家) も行っています。